

# 職員数減少による業務負担増に立ち向かえ! AI-OCRで紙帳票入力業務の自動化を実現

20年後には日本の労働力人口の大きな減少が予測されており、自治体は従来の半分の職員でも本来担うべき機能が発揮できる「スマート自治体」に転換することが必要となっています。そんななか、茨城県大子町では紙帳票の入力業務においてAI-OCRを活用して業務効率化を図っています。大子町役場の担当者2人に、AI-OCRを導入した経緯や今後の活用法などをうかがいました。

## 導入いただいたソリューション

### ●AIよみと〜る (LGWAN接続タイプ)

※LGWAN (Local Government Wide Area Network) は総合行政ネットワークの略称です。行政専用の閉域ネットワークで、インターネットから切り離され高度な情報セキュリティを維持しています。

※「AIよみと〜る(LGWAN接続タイプ)」のご利用には、スキャナーなどの帳票類を電子化する機器および総合行政ネットワーク(LGWAN)への接続環境が必要です。

## NTT東日本選定のポイント

- 「AIよみと〜る」がLGWAN対応となり、強固な情報セキュリティのもとで住民情報等を安心して扱えるようになったこと
- 職員数減少によって喫緊の課題となった業務効率化に対し、AI-OCRを活用した適切な提案をしてくれたこと



(左から順に)大子町 まちづくり課 主任 佐川 元気氏、大子町 まちづくり課 藤田 美由紀氏

## ソリューション導入成果

- ひとりで対応していた「タクシー利用助成事業」におけるタクシー券の入力業務を自動化させ、担当者の負担軽減および事業者への迅速な給付を実現できた
- 自動化による作業時間の削減が認められたことで、他業務でのAI-OCRの検討が進み業務効率化を推し進める契機となった

## ひとりで年間1万枚超の紙帳票入力を行う大きな負担が課題に 入力自動化の条件は、強固な情報セキュリティ担保

——「AIよみと〜る」で業務効率化を図ったのは、どのような業務でしょうか。

佐川：平成26年度から行っている、「タクシー利用助成事業」の紙帳票入力業務です。大子町では65歳以上で車が運転できない方に対し、通常料金の半額で利用できるタクシー券をお渡ししています。タクシーを降り際、運転手さんが「どの区間を走って料金がいくらかかったか」を手書きで記入します。それを事業者に月末締めで、まとめて提出してもらい、それらを集計したうえで割引分を役場が支払う仕組みです。

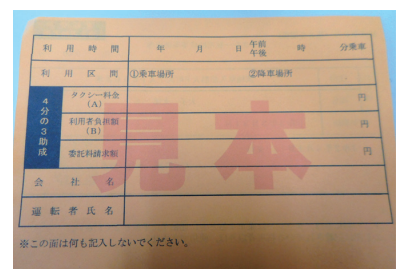
月平均で約1,100枚のタクシー券が役場に届いており、その入力業務を藤田がひとりで担当していたのです。

藤田：本来業務を別に抱えており、すべてのタクシー券を一枚一枚確認してExcelに手入力するのは、本来の業務に集中できない状態につながっていました。

——「AIよみと〜る」を採用いただいた理由を教えてください。

佐川：NTT東日本からの提案を受けたことがきっかけです。そのとき紙帳票の手書き文字をコンピュータが利用できるデジタルの文字コードに変換するOCR(※)技術に、AIを組み込んだAI-OCRの存在を初めて知りました。他のサービスはインターネットに接続するものが多いなか、「AIよみと〜る」はLGWAN内で閉じたシステム構成と聞きました。住民情報を取り扱うため、インターネットに接続せず強固な情報セキュリティが担保されていることが大きな決め手になり、令和2年の1月から導入しています。

※OCR (光学的文字認識) : Optical Character Recognitionの略。



実際にスキャンするタクシー券の見本

